

【一覧表記載例・注意事項】 傷害事案・別紙1

令和〇〇年(ワ)第〇〇〇〇号
原告 〇〇
被告 〇〇, 〇〇

最終更新日: RO.O.O
最終更新者: OOOO

事案の概要

(1) 事故の発生

項目	原告側の主張	証拠	被告側の主張
日時	RO.O.O 午前〇:〇〇頃	甲●:事故証明	認める。
場所	〇県〇市〇町〇丁目〇番〇号	同上	認める。
関係車両等	原告車 〇〇自動車 登録番号: 〇〇〇〇 運転者: 〇〇	同上	認める。
	被告車 〇〇自動車 登録番号: 〇〇〇〇 運転者: 〇〇 所有者: 〇〇	同上, 甲●:登録事項証明	認める。
態様	交差点を直進しようとした原告車と, その左方交差道路から一時停止規制を無視して交差点を直進しようとした被告車が, 出会い頭に衝突した。	甲●:実況見分	被告車が一時停止規制を無視した点是否認する。

(2) 責任原因

被告〇〇	民法709条(〇〇義務違反, 前方不注視)		…は争う。
被告〇〇	自賠法3条		認める。

(3) 受傷内容等

受傷者	〇〇	生年月日: HO.O.O (事故時…歳) 職業: …	甲●	不知。				
傷病名	…		甲●	認める。				
治療経過	医療機関等	入院/通院	開始	終了	入院	実通院		
	〇〇病院	入院	RO.O.O	RO.O.O	..	-	甲●	認める。
	〇〇整形外科	通院	RO.O.O	RO.O.O	-	..	甲●	因果関係を争う。
	〇〇接骨院 (通院重複)	通院	RO.O.O	RO.O.O	-	..	甲●	因果関係を争う。
		通算	RO.O.O	RO.O.O		
症状固定日	〇〇部	RO.O.O (事故から約…月, 固定時…歳)					甲●	否認する。
	〇〇部	RO.O.O (事故から約…月, 固定時…歳)					甲●	否認する。
後遺障害	自賠責の等級認定	…級…号(…もの) …					甲●	認める。
	原告側の主張	…級…号(…もの) …					甲●	否認する。
固定後経過	…						甲●	不知。

【注意事項】

はじめに	一覽性を損なうことのないよう主張の中核部分を端的に記載し, 主張の詳細は, 訴状等の本文に記載してください。項目ごとに主張の根拠となる書証番号と簡単な標目を必ず記載してください。本記載例はあくまで一例です。事案に応じて柔軟に記載してください。
赤枠	年月日は, 「R3.1.1」の形式で入力してください。
灰背景	赤枠の年月日が正しい形式で入力されていると, 自動で年齢等が表示されます。

事件番号	答弁書以降, 記載してください。
当事者名	原告名, 被告名を記載してください。
最終更新日	最終の編集時の年月日が自動で表示されます。
最終更新者	編集した際には, 必ず変更してください。

日時	年月日は, 「R3.1.1」の形式で入力してください。時間は, 12時間表記で午前/午後を区別し, 「午前/午後10:00頃」等の形式で入力してください。
場所	場所の地番等を記載してください。客観的な現場の状況を付記することも考えられます。例:「信号機の設置されていない丁字路交差点」
関係車両等	所有者は, 請求原因事実でなければ記載する必要はありません。事案に応じて「同乗者」等の欄を追加してください。一方が歩行者である場合には, 「原告側」「歩行者(氏名)」等と記載してください。
態様	交通事故が特定できる程度に記載し, 当事者間で争いがなくなるように記載の方法を工夫してください。(争われることが予想される場合, 主張の詳細は, 訴状本文に記載してください。)

責任原因	被告ごとに, 責任原因を法条と共に記載してください。被告に過失があると主張する場合, その注意義務の内容を端的に記載してください。また, 道路交通法上の義務に違反したと主張する場合, その条項も併せて記載してください。責任原因が民法715条等である場合, その要件事実を端的に記載してください。
------	---

受傷者	氏名, 生年月日, 職業を記載してください。事故日と生年月日が正しい形式で入力されていると, 自動で事故時の年齢が表示されます。
傷病名	診断書等を参照し, 正確に記載してください。
治療経過	医療機関等ごとに時系列に沿って記載してください。同じ医療機関等に複数回入院している場合には, 行を分けて記載してください。「入院/通院」欄は, 入院と通院の別を記載してください。開始日, 終了日が正しい形式で入力されていると, 自動で入院日数が表示され, 「通算」欄に通算した治療期間や入院日数が表示されます。入通院日に重複がある場合, 「(入通院重複)」欄を設け, 重複する日数をマイナスで入力してください。
症状固定日	傷病又は部位ごとに症状固定日を記載してください。特に分ける必要がない場合には, 一つの行に「全傷病」等と記載した上, 症状固定日を記載してください。症状固定日は, 当初, 自動で治療経過の最終日が表示されています。これと異なる場合には, 上書きしてください。事故日, 生年月日, 症状固定日が正しい形式で入力されていると, 自動で事故日からの経過月数, 症状固定時の年齢が表示されます。
後遺障害	後遺障害が残存したと主張する場合に記載してください。「自賠責の等級認定」欄には, 後遺障害の具体的な内容と認定された等級を記載してください。なお, 非該当, 申請中, 異議申立て中の場合にもその旨記載してください。「原告側の主張」欄は, 自賠責の等級認定と同様の場合には「同上」と記載し, そうでない場合には具体的に記載してください。
固定後経過	症状固定後の介護状況(施設入所, 退所等), 治療状況等につき, 参考になる点があれば, 時系列に沿って記載してください。

【一覧表記載例・注意事項】 傷害事案・別紙2

令和〇〇年(ワ)第〇〇〇〇号
 原告 〇〇
 被告 〇〇, 〇〇

最終更新日:RO.O.O
 最終更新者:〇〇〇〇

損害額一覧表

(人身損害)

項目	原告側主張額	理由等	被告側主張額	理由等
治療費	¥.....	〇〇病院:.....円(甲●) 〇〇整形外科:.....円(甲●) 〇〇接骨院:.....円(甲●)	¥.....	症状固定日は事故から約〇〇か月後のRO.O.Oであり、それ以降は相当因果関係を争う。
入院雑費	¥.....	日額.....円×〇〇日=.....円	¥.....	認める。
付添費	¥.....	付添者:原告の〇〇 日額.....円×〇〇日=.....円(甲●)	0	付添の必要性を争う。
通院交通費	¥.....	〇〇病院(電車・バス代, 〇駅~〇駅)円×〇〇日=.....円(甲●)	0	不知
休業損害	¥.....	基礎収入:日額.....円(甲●) 休業日数:〇〇日(甲●) (式).....×.....=.....		基礎収入:認否留保 休業日数:否認
逸失利益	¥.....	基礎収入:.....円(甲●) 労働能力喪失率:.....%(〇〇級) 喪失期間:.....年(〇〇歳~〇〇歳) ライプニッツ係数:..... (式).....×.....×.....=.....		基礎収入:認否留保 後遺障害は〇〇級相当にすぎない。 労働能力喪失率:多くとも.....% 喪失期間:長くとも.....年
傷害慰謝料	¥.....	入院〇〇日, 通院〇〇か月(実〇〇日) 〇〇により, 増額。	¥.....	争う。増額事由なし。
後遺障害慰謝料	¥.....	〇〇級 〇〇により, 増額。	¥.....	後遺障害は〇〇級相当にすぎない。 増額事由なし。
小計	¥.....			
過失相殺	0%%	被告車は一時停止後, 交差点に進入したが, 原告車が高速度で交差点に進入したため衝突。 別冊判タ38号【104】 基本40:60 原告車の著しい過失(速度超過)+10
過失相殺後	¥.....			
損害の填補				
任意保険金	¥-.....	甲●	¥-.....	乙●
労災保険金	¥-.....	甲●		労災保険受給がある。
自賠責保険金	¥-.....	甲●(受領日:RO.O.O)	¥-.....	
控除後	¥.....			
弁護士費用	¥.....			争う。
合計	¥.....			

【注意事項】

はじめに	一覧性を損なうことのないよう主張の中核部分を端的に記載し, 主張の詳細は, 訴状等の本文に記載してください。 主張の根拠となる書証番号を必ず記載してください。 本記載例はあくまで一例です。事案に応じて柔軟に記載してください。
灰背景	合計額等が自動計算されます。

事件番号	別紙1で入力していれば, その内容が自動で転記されます。
当事者名	
最終更新日	最終の編集時の年月日が自動で表示されます。
最終更新者	編集した際には, 必ず変更してください。

項目	積極損害, 消極損害, 慰謝料に分類して記載してください。 必要に応じて, 損害項目を追加/削除してください。
主張額	金額を整数で入力してください。 数式を使用することもできますが, その際には, 合計にずれが生じることを防ぐため, 必ず整数化する処理を施してください。例えば, 「=int(〇*〇*〇)」と入力すると, 小数点以下は切り捨てになります。
理由等	内訳(医療機関ごと等)や計算式を記載するほか, 基礎となる数値・事実ごとに書証番号を必ず記載してください。 この一覧表には, 一覧性を損なうことのないよう主張の中核部分を端的に記載し, 主張の詳細は, 準備書面等の本文に記載してください。また, 必要に応じて, 主張の詳細が記載してある書面を付記してください(「詳細は準備書面(2)P3」等)。
小計	以上の小計が自動計算されます(「SUM」を使用)。 項目の追加/削除をした場合には, 対象範囲を必ず確認してください。
過失相殺	過失相殺すべき割合(原告側の過失割合)につき, 「%」を単位として入力してください(「50」と入力すると「50%」, 「0.5」と入力すると「0.5%」となるので注意してください。) 過失相殺後の額は自動計算されます(過失相殺として控除すべき額の小数点以下を切り捨て。「INT」を使用)。
損害の填補	項目ごとに填補された額をマイナスで入力してください。 ※なお, 「任意保険金」とは, 加害者側保険会社から支払われた保険金のことを指します。 元本充当以外の充当方法を用いる場合には, その方法と計算式を明示し, 元本から控除される額をマイナスで入力してください。 控除後の額は自動計算されます(「SUM」を使用)。 項目の追加/削除をした場合には, 対象範囲を必ず確認してください。
合計	損害の填補後の額に弁護士費用を加えた額が自動計算されます(「SUM」を使用)。